

コミュニティーづくりに新風を

防災やサークル活動など誰もが参加できる地域活動をめざす

●ポイント

- ・ 台風 19 号避難の経験から住民に防災意識が高まり、防災説明会に 7 割近い世帯が参加。
- ・ 祭りを中心とした従来からの活動に加え、住民全員が参加できる活動に力を入れていく。
- ・ コミュニティーづくりに新たな風を吹き込む。

すべての住民が共通して参加できる活動に取り組むことが大切

小柳町南町会の一帯は、多摩川に近く、多摩川緑地、小柳公園、小柳散歩道などが整備され、緑が多く閑静で住みやすい環境となっている。小柳町に隣接する府中市是政四丁目には多摩川競艇場（多摩川ボートレース場）があり、レースのある日には多くの観戦者が訪れる。

令和元年（2019 年）10 月 12 日の台風 19 号（東日本台風）では、避難勧告が出て実際に避難した地域でもあり、防災への関心は高まっている。

小柳町南町会副会長によれば、町の地域活動は、5 月に開かれる府中市の大國魂神社で行われる例大祭「くらやみ祭り」を中心に進んできた。この祭りは武蔵国の「国府祭」を起源に、東京都指定無形民俗文化財となっている。

そして小柳町南町会としても秋祭りがあり、山車や太鼓、神輿を維持するために地域の人たちが資金を出し合ってきた歴史がある。

こうした伝統的な行事に地域として協力していくことは重要だが、一方で新しく越してきた人たちにとって祭りに参加することは敷居が高く、祭りを中心にして地域をまとめていくのは難しいという現実がある。

「祭りとは別に、多くの住民が参加できる活動が大切であり、住民の関心が強い防災は K E Y となる活動の一つであると考えている」と副会長は説明する。

まだまだ低い町会加入率。新規入会の働きかけはこれからの段階

小柳町南町会では、地域の世帯数は増えているが、町会加入者数は減少している。副会長によれば、アパートを入れて 1,400 世帯くらいの人たちが暮らし、町会への加入率は半分程度となっている。

新規加入世帯の獲得や担い手の育成は町会が直面する課題となっていて、「これまでは新しい家が建っても、町会として組織だって勧誘に行くことをしていなかった。高齢になった人たちが、役が回ってきて

も出来ないと言って町会をやめていく」(副会長)と語り、町会として危機感を強めている。「昔は隣の人が風呂に入りに来る、醤油を借りに来るといった隣近所の付き合いもあったが、今はご近所の井戸端会議もなくなった。今の世の中、地域とのつながりが薄くなってきているため、昔と同じようにはならないが、少しでも取り戻していけないか。」と頭を悩ませる。

「町会全体として高齢化が進んでおり、町会役員も若い世代がなかなか入ってこない。新しいことを始めようとしても準備作業だけでも大変な負担となる。これはおそらく他の多くの町会も直面している課題であり、明らかに町会は過度期にきている」と副会長は率直に語る。

台風19号の避難体験では住民の意見を行政に伝える役割など、町会に新たな期待

一方で、町会役員や新規加入世帯の獲得については、今後対策を講じれば状況が変わっていく可能性はある。

副会長自身は、たまたま近くに住む町会の役員OBから声を掛けられたことが、町会に関わるきっかけとなった。「私自身、地域に恩返しをしていかなければならない年齢になってきたと思っていましたが、声を掛けられなかったら、決して自分から役員になることはなかった。私と同じように地域に恩返しをしたいという人や自分の時間を使ってボランティアをやってきた人がきっといるはずであり、そういう人をいかに見つけ出して声を掛けていくかが大切になってくる」と語る。

令和元年度(2019年度)は防災に関する勉強会を10数回行うとともに、「連絡網や安否確認」の体制整備、「避難所体験訓練」などを実施したが、多くの方々に参加いただき、未加入の世帯を巻き込むことにも手応えを感じた。

令和元年度(2019年度)東京都の「地域の底力発展事業助成」を利用し、地域防災マニュアルや安否確認プレートなどをセットにした「防災ファイル」を作成して会員世帯に配布したほか、町会員以外の人も含めた全世帯を対象とした説明会を実施した。説明会には予想を超す7割近い世帯の人たちが参加してくれ、町会への新規加入も9世帯あった。新型コロナの影響により現在は活動を中止しているが、コロナ禍が終息し次第、活動を再開したいと考えている。

台風19号(東日本台風)で避難勧告が出て実際に避難した地域であることから防災について問題意識を持っている人たちが多く、説明会では台風19号の府中市の対応について様々な意見が出た。小柳町南町会として説明会で出た意見を取りまとめ、府中市長宛に意見要望書を提出するなど、町会の役割に住民の期待が高まっている状況も生まれている。

避難所体験会では小柳小学校、府中市の防災危機管理課の協力を得るなど、地域との連携にも力を入れている。令和元年度の避難所体験会では、府中市防災危機管理課の職員が避難所開設セットなどを組み立て町会幹事などに説明。今後は、町会幹事が組み立て方を習得し、それができた上で一般の住民を含めた避難所開設訓練を行うとしている。

地域のクラブ活動やサークル活動の企画段階から関わりコミュニティーを育てる

そのほか副会長の今後の理想としては、若い人たちが集っている地域のコミュニティー活動に町会として一歩踏み込んでいくことだと考えている。「地域の人たちの活働や子供ラグビーチーム、小学校の管

弦楽などに町会として資金を援助してきた。そうした地域のクラブ活動、サークル活動に町会として取り組み、コミュニティーづくりを進めていく。役員の工数が不足していることから実際のところかなり難しいが、活動に役員が入っていき一緒に作り上げていく中で、隠れている人材を発掘できるとともに町会活動に目を向けてもらえる」と語る。

「社会福祉協議会を中心に、地域活動でボランティアを希望する人と、支援が必要な高齢者などを結び付ける取組が動き出している。町会とは別の動きだが、関わっていくようにしたい。地域の支え合いに町会として入っていく。そうした動きの中で町会が有機的につながっていくことで、町会活動に対して住民の理解が深まっていく」とのことで、地域の輪が広がる可能性も大きい。

副会長自身は、大手企業の会社員から転身して整体院を開業して約 5 年。若い人たちと共に整体、自然療法などの勉強を今なお重ねている。コミュニティーづくりに新たな風が吹き始めている。



避難所となっている府中市立小柳小学校